

平成24年度 みどり清朋高等学校 第1回学校協議会 報告

日 時 平成24年10月12日(水)午後2時～4時
場 所 本校大講義室
出 席 者 三坂委員、中尾委員、松崎委員、荻本委員、藤澤委員、古川委員
久木元校長、勝山教頭、島事務長、乗田首席、中村首席、渡辺教務部長、
山本生徒指導部長、岩田進路部長、城戸総務部長

1 校長挨拶

久木元校長より、府立高校を取り巻く状況についての説明があった。内容は以下の通り。

- ① 私学授業料無償化に伴う公立高校の置かれている状況について。
- ② 今年度からの入試制度の改編により、前期と後期の2期募集となる。
- ③ 教育3条例の制定で、学校現場が大きく変化する。

加えて、今後の生徒数の減少、本校生徒の課題等を踏まえて、今後一層学校の活性化に努めていきたい。また、学校協議会としても忌憚ない意見をお願いしたい。

2 協議委員の紹介

新しく、学校協議会委員についての紹介と委嘱があった。

3 会長の選出

会長として、三坂委員を全会一致で選出した。

4 報告

(1) 新しい学校協議会の制度について (勝山教頭)

今年から、大阪府教育委員会の附属機関として学校協議会が規定されたこの伴い、第三者的な立場より、学校改革に向けた提案をお願いしたい。また、保護者から寄せられる意見についても、この協議会で諮っていただくことのご確認をお願いしたい。

(2) 学校経営計画について (久木元校長)

「地域に学び、地域とともに歩む学校」を大目標に、「確かな学力の育成、進路指導の充実、生徒指導の充実、地域に信頼される魅力ある学校づくり」を中期目標に掲げ、それぞれの改善指標に即して、実績を伸ばすべくすすめて参りたい。特に本年度は、授業力の強化を大きく掲げたい。

5、協議

(1) 授業力の向上

まず、本年度の授業力向上への取り組みを、中村首席より説明があった。

<中村首席の報告>

本年度は授業力向上に向けて、教育委員会が企画している「パッケージ研修」への参加と、2回の授業アンケートの実施を行っている。前者に関しては、新任教員の授業力を引き上げ、全体に研修の内容を理解してもらう目的で、事前研修→新任教員の研究授業→振り返りといったサイクルで計画している。後者については、今回からアンケート結果をリーダーチャート化し、各教員へ結果を返却した上で、自分の課題や改善点についてセルフチェックを実施、教科による会議や管理職による授業観察に役立てることを考えている。

【主な質疑】

中尾委員：個人レベルまでデータが出されている、セルチェックまで配慮されており良い。

ただ、教科会議等で話し合う場合、「仲間」という絆がある中では、互いに指摘し合うことは難しいのでは。

勝山教頭：実際どれだけ本音で言い合えるか難しい。今年はある程度教科にまかせているが、来年度にはガイドラインが出されるので、それに沿って行える。

中村首席：本校では、各教員が授業改善に向けての意欲はかなり高い。多くの教員は協力的だと感じている。

久木元校長：座学よりも実技系の授業の方が生徒の評価が高い。この点も加味して考えていく必要がある。授業内容を高度化するとどうなるか、等問題もあるが、セルフチェックを校長に提出させる意義は大きい。

三坂会長：アンケートの実施など労力が多くかかるが、それを活かすことも大事。アリバイ作りではなく、相互批判等の難しさもあるが、期待している。

荻本委員：校長の掲げた学校経営計画を見てびっくりしている。全部実施すると教員の負担が膨大だ。また、人間を育成するには時間がかかるので、長い目で見ないといけないような気がする。「みどりが育成したい人間像」と、このアンケートを関連させることも必要だ。平均的な人間を育てるより、学校の特色を伸ばせるようなものとして活用してはどうか。

藤澤委員：授業向上のベースが生徒のアンケートなのは考えものだ。むしろ各先生の個性が大事。平均化された教員を作ってしまうのではないか。机上の空論より、本当の人間を育てることの方が重要。評価ばかり気にしてはいけないのではないか。

久木元校長：新人教員の大量採用を迎えて、早期に育成する必要もある。そのための方策として考えることもできる。

藤澤委員：子どものいじめが多いのは、核家族化の責任もある。先生方も、核家族化の中で生育し、人間形成を十分やってこなかったことも一因としてあるのではない

か。手を合わせたり、朝のあいさつなどを軽視してきたきらいがある。

久木元校長：中期目標については、昨今、民間校長が採用され、3年任期であることから短期的視野に立たざるをえない事情もある。また、教員負担については、事務の見直しを図るなどスクラップアンドビルドを考えていかざるをえない。

荻本委員：それならば、目標が多すぎる。何かに絞ることも大事だ。また、スクラップの部分を考えないと、人間が神経質になりすぎてダメになる。

松崎委員：府の条例の中で、保護者アンケートも教員評価に反映するとなっている。中学でも、授業改善を求めているが、年配の先生はやはり難しい。

久木元校長：アンケートの際、高校生はまだ冷静な判断が可能だが、中学では難しいのではないか。

古川委員：こうしたことが、どこまで意味があるのか分からない。最近、感謝しない子どもが増えているというが、中にはどう表現していいのか分からない子もいる。型にはまらない教育を求めたい。

中尾委員：負担や労力はあるが、授業こそが学校の中心なのだから、これを良くする努力は必要。しかし、あまり細かい数字にとらわれて、その違いにこだわるのは良くない。教員が互いに協力・支援・共有していくことが大事だ。学校全体としての「雰囲気づくり」に利用すればいい。

三坂会長：教育心理学では、生徒の「分からない」の原因は教員にあると捉えている。先生の「歩幅」と、生徒の「歩幅」の違いをチェックする努力は必要だと考える。

(2) 地域に信頼される高校

小高連携事業を中心に、地域連携について乗田首席からの報告があった。

<乗田首席の報告>

池島小学校と、昨年から行っている小高連携事業の一環で、夏休みの学習サポート、2年生の科目「生活」でのさつまいも畑作りやさつまいもの収穫と調理、また陸上部員による6年生への陸上指導を現在行っている。高校生は、こうした事業を通じて自尊感情や自己有用感を高め、異世代交流の中から児童にも良い影響があった。

【主な質疑】

藤澤委員：11月11日の公民館分館での5周年音楽祭にも、本校の太鼓同好会や吹奏楽部が演奏してくれる予定があり、とてもありがたい。また、本校PTA主催の絵葉書講座や、9月に実施された文化祭も地域にお招きがあり、楽しかった。

古川委員：地域の方が協力していただき、ありがたい。PTAとしても手伝わせていただきたい。

松崎委員：9月に行われた、池島中学校向けの体験授業は良かった。5周年音楽祭における、中高での吹奏楽部の共演も楽しみにしている。

三坂会長：高校は近隣からの苦情も多い。地域から喜ばれ、地域に貢献することも重要。

荻本委員：これからも、水ロケットの打ち上げや、垂直離着陸ロボットの実験等で協力したい。

中尾委員：地域連携は大事だ。生徒が地域の子どもと人間関係を持ち、自己の有用感を実感できる。こうした活動をもっと広めるために、校内でのアピールが必要。

山本生徒指導部長：その他、治水緑地での「クリーン作戦」や、緑地内プレハブ倉庫の美術部による彩色デザインなどの取り組みも行っている。

久木元校長：今年から、池島中学校の地域教育協議会にも参加させてもらっている。これから何ができるかもっと考えたい。また高大連携での支援もお願いしたい。

三坂会長：東北の被災地に大学生を連れて行って、ソーシャルワークの役割について学ばせている。その中から多くの事柄を学ぶことができた。保護者等と繋がるシステムで参考になることがあれば、また報告したい。

中尾委員：かつてスーパーサイエンスハイスクールで経験した中で、大学院生を招いたことがあった。参考になるかもしれない。

三坂会長：幅広く地域と連携し、信頼される学校になってほしい。

6 その他

次回の開催日程について、勝山教頭から提案があった。次回は2月8日（金）の午後2時からとなった。

最後に渡辺教務部長から、来年度1年生で採用する教科書の紹介があった。